

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 Human Centric Intelligent Society	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
環境経営	グリーン調達	環境リスク最小化に向けた取り組み	社員への環境教育・啓発活動	社会とのコミュニケーション			

社会とのコミュニケーション

お客様、社員、お取引先、株主・投資家、国際社会・地域社会など、多様なステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに努めています。

有識者との対話「環境ダイアログ」

富士通グループは、社会の変化やニーズを反映した環境経営を推進していくために、幅広いステークホルダーの皆様と対話する機会を多く持ち、確かな信頼関係を築いていくことが重要であると考えています。

その一環として、環境ダイアログを2011年度より開始。2014年度末までに計20回開催し、NPO、大学、企業、ジャーナリストなどの多様な分野から40名以上の有識者の方々をお招きして「環境」を軸とする多様なテーマで対話を重ねています。対話を通して富士通グループに対する期待や要請を理解し、環境経営の改善や強化につなげています。

地域創生へのICTの貢献を議論

雇用不足に起因する都市部への若者の人口流出や出生率低下による過疎化・少子化・高齢化。一方で、人口集中による大気汚染やヒートアイランド現象といった都市部ならではの問題。これらの多くは人口、産業構造、立地場所などの地域特性に依存しています。そこで、地域活性化におけるICTの可能性と貢献について、第5回の環境ダイアログの中で自治体や専門家の方々と意見交換を行いました。

富士通グループでは、環境・経済・社会のカテゴリーで地域の属性や特性を把握し、総合的に自治体の価値を見える化する

2014年度のテーマ

- 【第1回】 途上国の食糧問題に対するICTの貢献の可能性
- 【第2回】 富士通のマテリアリティ
- 【第3回】 メディアとの対話

- 【第4回】 水資源の有効利用と貢献
- 【第5回】 ソーシャルデザイン
- 【第6回】 気候変動への適応(農業分野)

る評価ツール「EvaCva(エヴァシーヴァ)」を開発し、オープンデータとして提供しています。そのことから「地域資源の把握と最大限の活用」や「地域の新たな価値創造」へと話題が広がりました。

「地域資源を見える化し課題を抽出することで、それに見合う対策が打てる」、「良い情報を開示しても、活用してくれる人が増えない限り『こういうことをやっているのだね』で終わってしまう、「活用」と「周知」は別の問題」、「データを見える化したり、共感してもらう工夫も必要」といったご意見が挙がりました。これらを参考にしながら、システムの精度を高めるとともに、ICTの力を活かし社会課題の解決に取り組むことの重要性を再確認しました。



EvaCvaのWeb画面
http://evacva.net/

対話からフィールドへ

2013年度環境ダイアログでの地球温暖化適応策に関する意見交換をきっかけに、コラボレーションが生まれています。

ダイアログに参加いただいた竹村 真一様(京都造形芸術大学 教授)がプロデュースする夏休みイベント『地球ワンダーミュージアム——生きた地球の姿を「見える化」するICTの力』に富士通が協賛・企画協力。東京・大手町で2014年7月～8月にワークショップやトークイベントを開催し、1,000人を超える方々に来場いただきました。

ワークショップでは子どもたちにリアルな地球環境を見てもらうなど、地球環境課題の解決に向けたICTの取り組みや可能性を知っていただく大きな機会となりました。



ワークショップの様子

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 Human Centric Intelligent Society	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
環境経営	グリーン調達	環境リスク最小化に向けた取り組み	社員への環境教育・啓発活動	社会とのコミュニケーション			

社会とのコミュニケーション

ファシリテーターの声

今年度も様々なテーマを取り上げ、社会との対話を着実に進めていることを高く評価します。「やっている」ことを示すためではない、実質のある継続的な対話は、富士通にとっても社会にとっても大事な財産です。

こうした対話から、社会の見る目や重視することを直接的に感じ取り、PDCAサイクルに乗せて改善してきたこともあり、富士通の環境経営の体制や実績については、有識者が最大級の称賛を送るほど、良い成果を上げてきています。

対話を重ねることのもう1つのメリットは、「良いこと」「簡単に取り組めること」だけでなく、「すぐには難しいかもしれないが重要なこと」へと、意識も対話自体も深化していくことです。

これまでのダイアログを通して、様々な有識者との関係性も深まり、具体的なコラボレーションもいくつも見られます。今後さらに、「一緒に社会課題を解決する」ためのステップを増やし、市民や若者との対話も進めていけたらと思っています。さ

らなる対話の進化・深化に大いに期待しています。



幸せ経済社会研究所 所長
枝廣 淳子 氏

持続可能な社会やグリーンICTの普及拡大に向けた外部団体との連携

富士通グループは、国内外の外部団体に積極的に参加することで、持続可能な社会の実現に向けたグリーンICTの普及や活用の推進に取り組んでいます。

主な参画組織

WBCSD(持続可能な発展のための世界経済人会議)： 交通・運輸領域の評価指標の検討や 各種ソリューションの具現化を推進
グローバル・eサステナビリティ・イニシアティブ (GeSI)： ICTがサステナビリティにもたらす可能性について 包括的な分析を行ったレポート「SMARTer2030」に貢献
ITU-Tの「ICTと気候変動グループ(SG5 WP3)」： グリーンICTの普及拡大
ISO TC286 SC1 (Smart Urban Infrastructure Metrics)： スマートコミュニティにおけるインフラ評価方法構築や ICT役割明確化を推進
「GHGプロトコル製品ライフサイクルの算定及び 報告基準(ICTセクターガイダンス)」の運営委員会： ICTライフサイクルの環境影響を評価
データセンターの評価指標に関する日米欧の国際協調会議： データセンターの環境配慮の促進
Uptime Institute Network： データセンターのパフォーマンスや 効率性の向上に向けた調査や会議への参加
JEITAグリーンIT委員会： 製品・サービスの貢献量評価手法の確立に貢献

TOPICS GeSIのレポート「SMARTer2030」発行に ゴールドスポンサーとして参画

2015年6月、GeSI(グローバル・eサステナビリティ・イニシアティブ)は「SMARTer2030 Report -ICT Solutions for 21st Century Challenges-」を発行しました。本レポートでは、ICTは世界の温室効果ガス排出量を2030年までに20%削減でき、11兆ドルの経済効果をもたらすという試算結果を載せているほか、ICTがサステナビリティにどのように貢献できるのかを示したケーススタディを数多く掲載。富士通はゴールドスポンサーとしてレポート作成に参画し、エネルギー、農業、製造に関するソリューション事例も紹介されています。

富士通は今後も、ICTの貢献可能性が現実のものとなるよう、ソリューション提供や利活用を推進していきます。



富士通社員(中央)が登場した、ドイツ・ボンでのレポート発行イベントの様子

展示会・イベントを通じたコミュニケーション

富士通グループは国内外の展示会やイベントを通じて、お客様や地域住民の皆様に対し、地球環境課題の解決に向けた富士通グループの取り組みに関する情報を紹介しています。

2014年度に出展した主な展示会・イベント

- ITU Green Standard Week
中国・北京市／2014年9月
- エコプロダクツ2014
東京／2014年12月
- 川崎国際環境技術展
神奈川／2015年2月



エコプロダクツ2014の富士通グループ展示ブース